

基準カリキュラム

※ カリキュラムの詳細については、基準カリキュラム新旧対照表参照

中級認定校

中級認定校は初級・中級両カリキュラムの履修、単位取得に加え、障がい者スポーツに関する活動実績を80時間以上行う必要があります。
※詳しくは活動実績証明について参照

中級カリキュラム

初級認定校

初級カリキュラム

| 領域 | 講習科目 | 内容 | 時間 | |
|------|----------------|---|--|-------|
| 人間力 | 思考判断 | スポーツにおけるインテグリティと指導者に求められる資質 | 1.5 | |
| | 思考判断 | 障がい者スポーツの意義と理念 | 1.5 | |
| | 態度行動 | コミュニケーションスキルの基礎 (※演習含む) | 障がい者スポーツ指導者として必要なコミュニケーションスキルやソーシャルスキルの基礎を学ぶ。実践、演習を通して人前で話すこと、相手の意見を傾聴することを体験する | 1.5 |
| | | 障がいのある人との交流 (※実技、実習可) | スポーツ活動をしている障がい当事者の体験談を聞いたり、スポーツ活動現場に出かけるなど、障がい者とのふれあいを通じ、障がい者にとってのスポーツの必要性・意義・価値を学ぶ。 | 1.5以上 |
| | | 障がい者スポーツ推進の取り組み | 資格を取得した後に、地域で行われている教室や大会等へ積極的に関わられるように、地域の障がい者スポーツ振興の現状について学ぶ。 | 1.5 |
| | | 障がい者スポーツに関する諸施策 | わが国の障がい者福祉施策（障害者手帳を含む）および障がい者スポーツに関する施策（スポーツ基本法やスポーツ基本計画など）について学ぶ。 | 1.5 |
| 共通 | 安全管理 | スポーツを実施する際の安全管理の基本的な項目と内容を学ぶ。（ヒヤリハットや指導者の安全配慮義務、AED、応急手当など） | 1.5 | |
| 知識技能 | 各障がいの理解 | 各障がいの主な特性や、実際のスポーツ活動場面で活かせる各障がいに関する知識と指導上の配慮点を身につける。 ＜身体障がい3時間（肢体不自由、視覚障がい、聴覚・音声言語障がい、内部障がいを含む）、知的障がい（発達障がいを含む）1.5時間、精神障がい1.5時間＞ | 6以上 | |
| | | 各障がいのスポーツ指導上の留意点と工夫 (※実技) | 障がいのある人が、スポーツやレクリエーションを安全に楽しむためのルール・用具の工夫の仕方や、指導者としての留意点・接し方について実技を通して学ぶ。 | 3以上 |
| | 全国障害者スポーツ大会の概要 | 全国障害者スポーツ大会の基本理念など大会の概要及び大会開催の目的や意義について学び、大会がスポーツ未経験者や初心者の方のスポーツ参加の動機づけになっていること、地域のスポーツ振興を進める契機となっていることを学ぶ。 | 1.5 | |
| 時間数 | | | 21時間以上 | |

| 領域 | 講習科目 | 内容 | 時間 | |
|--|--|----------------------------------|---|--|
| 人間力 | 思考判断 | スポーツの意義と価値 (※演習含む) | 3 | |
| | 態度行動 | 障がい者スポーツ指導員としてのキャリア形成 (※演習含む) | 過去と将来の指導者としてのキャリアを考え、自身の指導者像を形成する。＜①事前課題（自身の指導員としての振り返り）、②演習（指導員としてあるべき姿の形成）＞ | 3 |
| | | 地域における障がい者スポーツ振興 | 障がい者スポーツに関する諸団体や関係所管について理解し、連携することの必要性について学ぶ。 | 1.5 |
| 知識技能 | 共通 | 身体の仕組みと体力づくり | 身体の仕組みやトレーニングの原理・原則を理解し、障がい者の体力向上トレーニングや健康づくりのための運動指導について学ぶ。 | 3 |
| | | 救急処置法 (※実技) | 救命手当や応急処置の方法、手順さらには事前の準備や事後の留意点について実技を通して学ぶ（心臓蘇生法、AED、気道異物除去、熱中症、外傷など）。 | 3 |
| | | リスクマネジメント | リスクマネジメントに関する基礎知識を学び、障がい者スポーツ指導現場における事例を学ぶ。 | 1.5 |
| | | スポーツ心理学Ⅰ | 障がい受容について受傷からの心理的プロセスを学ぶ。さらに障がい者の体験談を通して、スポーツの心理的効用と心理的支援の方法について学ぶ。 | 1.5 |
| | 専門 | 障がい各論 | 障がいの種類や特性について医学的な知識を学び、日常生活やスポーツ現場で関わるうえでの留意点について学ぶ。 ＜身体障がい7.5時間以上（肢体不自由3時間、視覚障がい1.5時間、聴覚・音声言語障がい1.5時間、内部障がい1.5時間）、知的障がい（発達障がい含む）3時間、精神障がい1.5時間＞ | 12以上 |
| | | | 障がい者のスポーツ指導における留意点 | 障がい特性に応じた支援・指導法を理解し、スポーツ指導場面における留意点について学ぶ。また、指導案を作成するうえでの基本的なポイントについて学び、個別指導をする際の指導案を作成する。 |
| | | 全国障害者スポーツ大会競技の指導法と競技規則 (※実技) | 全国障害者スポーツ大会実施競技の実技を通して、その指導法や競技規則など、選手団コーチとして必要な知識・技能を学ぶ。 ＜水泳3時間、陸上3時間、その他全国障害者スポーツ大会の競技より3競技を選択し各2時間＞ | 12 |
| | | 全国障害者スポーツ大会の歴史と目的・意義 | 全国障害者スポーツ大会の成り立ちや歴史の変遷を学ぶ。 | 1.5 |
| | | 全国障害者スポーツ大会の実施競技と障害区分 | 全国障害者スポーツ大会で実施されている競技・種目の概要を理解し、適用されている障害区分を学ぶ。 | 3 |
| | | 全国障害者スポーツ大会選手団編成とスタッフの役割 | 全国障害者スポーツ大会へ帯同するスタッフとして、代表選手の選考方法および選手や選手団に必要なサポートについて学ぶ。 | 1.5 |
| 補装具の理解 | 補装具の種類を理解し、その取扱いについて学ぶ。 | 1.5 | | |
| 発育・発達に応じた指導法 | 身体の発育・発達の原則と精神的な発達、知的障がいの特性に応じた発育・発達の観点から運動指導の留意点について学ぶ。 | 3 | | |
| 最重度の障がい者のスポーツの実践 (重症心身障がい児・者を含む) (※見学・実技可) | 最重度の障がい者（重症心身障がい児・者を含む）のスポーツを理解し、様々な創意工夫の実例について学ぶ。 | 1.5 | | |
| 時間数 | | | 57時間以上 | |

障がい者
スポーツの
活動実績
80時間
以上